

## ヤマセミさんの日替わりランチ

前に紹介したヤマセミの行動その後について。

中川原公園に毎日のようにやってくるヤマセミは、今の季節だけしか観察することが出来ない貴重な出逢いです。本来は山深い溪流などに生息する習性から、市街地に近い公園で見られること自体がとても珍しいことです。

公園にはつがい思われる雄と雌が現れ、お気に入りの枝先で魚を狙っている。何回も観察していると、川面にせり出す枝の決まった位置に留まっていることが分かってきた。オスとメスが入り代わりながらも、留まる場所は同じ枝の同じ場所です。周辺には似たような枝が何か所もあるのに、数センチも変わらないポイントにピッタリです。川面に目を凝らして、じっと魚の動きを眺めます。



いつもの枝先から魚を狙うオス

チャンスがやってくると一気に水中に飛び込みました。魚を捕らえる確率は50%くらいでしょうか。捕らえた魚を何回か撮影出来ました。魚の専門家に魚の鑑定をお願いしたところ、珍しい種類もありました。小さいのはギンプナでした。

下流の池は釣りの名所として有名ですが、地元同好会では毎年フナの稚魚放流を続けて来たこともあり、冬でも小魚が群れているのでしょう。2番目はウグイです。ヤマセミにとっては丁度いい大きさでしょうか。美味しそうに飲み込んでいました。



メスも同じ場所に



メスがくわえたのはギンプナ

一番大きいのがヤマメです。特有の斑紋がハッキリと分かります。渓流域に生息する習性のヤマメが、なぜこんな小川にいるんだろうか。魚の専門家も驚いていました。自分の体の半分くらいの大きさですが、左右に振って叩きつけてから、飲み込みました。高級魚のヤマメは美味しかったです。



ウグイを捕まえた



大物のヤマメを捕え、得意げに突き上げた